



医療法人 光愛会

〒569-0814 大阪府高槻市富田町3-29-13

Tel. 072-629-9077 Fax. 072-629-9078

Web. <https://kouai.net>



KOUAI PRESS



TALK THEME

— あなたのそばへ。
わたしたちの訪問支援
アウトリーチ

そして人は社会に

魚は水に、

鳥は空に、



OUTREACH 光愛会の訪問支援 OF KOUAIKAI

光愛会の各事業所における、訪問支援について
ご紹介いたします！

高槻地域生活支援センター オアシス

○ オアシスの訪問支援

オアシスの訪問支援では相談者の生活に深く関わり、その人らしい生き方と共に考えます。相談内容や対象は多岐にわたり、医療・福祉・行政など多機関連携も欠かせません。正解のない中で最適な支援を模索し、新たなスキルを学び続けています。課題を乗り越え前向きに変化する姿を支えることに大きなやりがいを感じています。

◆ 対象

- ・身体障害、知的障害、精神障害(発達障害含む)のある方
- ・上記に加え、難病等のある方
- ・高槻市にお住まいの方

◆ ご利用を検討される方は

まずはお問い合わせください。



◆ 理念

“ともに”

「ための(for)ではなく、「ともに(with)」
いっしょに活動します

Philosophy

こうあいクリニック

○ こうあいクリニックの訪問支援

こうあいクリニックでは、通院が困難な患者さんに訪問診療を行い、定期的な治療や病状管理に加え、緊急往診や入院紹介にも対応します。医師と看護師・精神保健福祉士が同行し、医療だけでなく福祉制度の相談も可能。訪問看護や訪問栄養指導も含め多職種が連携し、外来やデイケアへとステップアップしながら継続的に支えるチーム医療を提供しています。

◆ 対象

- ・高校生以上でご自宅または施設での診察を希望される方
- ・クリニックから半径16kmの距離

◆ ご利用を検討される方は

お電話でのお問い合わせで
状態やご希望をヒアリング

契約
(ご自宅訪問)

初診



◆ 理念

『地域と共に歩む』みんなのクリニックの
理念を大事にし、いい時も悪い時も

訪問支援を通して患者さまに寄り添います

Philosophy

訪問支援

OF KOUAIKAI

ひかりえクリニック

◆ 理念

Mental health care for
your daily life

生活者の目線での心のケアを提供します



○ ひかりえクリニックの訪問支援

当院では生野区を中心に通院困難な方へ訪問診療を行い、定期診療や緊急往診、入院紹介にも対応します。医師と看護師・精神保健福祉士が同行します。高齢の方では、身体科の担当医との連携や紹介も多く、未治療でひきこもる方へも年単位での関わりを行っています。さらに精神保健福祉士・看護師の訪問による病状確認や生活相談、他機関連携による支援も行っています。

◆ 対象

- ・心の不調でお困りの方で通院が困難な方

全域対応 生野区・東成区 一部対応 中央区・天王寺区

◆ ご利用を検討される方は

訪問診療ご利用の際は、
一定の基準をクリアする必要があります。
まずは一度ご相談ください。

訪問看護ステーション アユース

◆ 理念

人は社会に生き、
社会参加できる地域づくり



○ アユースの訪問支援

アユースは利用者の主体性と自律性を尊重し、専門的支援を提供します。大阪市以北(高槻・吹田・枚方・森ノ宮)の4事業所に約92名の職員を配置し、地域で安心して暮らせる環境づくりを推進。日常生活や生活技能、対人・家族関係の維持、精神・身体症状の悪化予防、ケア連携や社会資源の活用を支援し、リカバリーやストレングスを重視してエンパワーメントを促します。

◆ 対象

- ・うつ病や認知症など、精神疾患のある方
- ・大阪府下大阪市以北の広いエリア

◆ ご利用を検討される方は

相談

面談・説明

契約

支援開始

◆ 対象

- ・高校生以上でご自宅または施設での診察を希望される方
- ・クリニックから半径16kmの距離

◆ ご利用を検討される方は

お電話でのお問い合わせで
状態やご希望をヒアリング

契約
(ご自宅訪問)

初診

(あなたのそばへ)
わたしたち
の
訪問支援
アウトリーチ

座談会メンバー



光愛病院
薬剤課 課長

高田 雅人



高槻地域生活支援センター
オアシス 主任

伊吹智文



訪問看護ステーション
アユース高槻 所長

岸本 和巳



こうあいクリニック
精神科医

町田 康博

○ まずは自己紹介からスタート! ○

高田 皆さん、お疲れさまです。本日司会を務めさせていただきます、高田です。どうぞよろしくお願いいたします。

伊吹 高槻地域生活支援センター オアシスで相談支援専門員をしています。主に地域で生活されている病気や障害のある方の計画相談やサービス調整を担当しています。よろしくお願ひします。

Start with Introduction

岸本 訪問看護ステーションアユース高槻の管理者をしています。これまでアユース「吹田」「緑地公園」「森ノ宮」などの勤務経験があり、現在は主にマネジメント業務を担っています。

町田 こうあいクリニックで医師をしています。主に訪問診療を担当しており、常勤として関わって約3年になります。

精神科の訪問診療は
重症患者だけが対象?

高田 精神科の訪問診療の対象は「病院に行けないほど重症の患者さん」なのですか?

町田 訪問診療の対象者については決まった規定等ではなく、ある程度は自分たちで決めていく必要があります。これまででは「訪問に来てください」というニーズに対して全て応えなければならないと思っていたが…。医療には外来と入院と2つの形態がありますよね。入院しなければならない方は入院、そうでない方は外来に通院します。訪問診療を、自宅をあたかも入院している環境のように捉えている方もいます。精神科の場合、一般的な医療の「外来」と「入院」の中間にあるものだと捉えています。私は、外来を「飲食店」、入院を「コース料理」に例えるなら、訪問診療は「キッチンカー」のようなものだと考えています。つまり、医療を届けに行きますが、「注文(=本人が診療を受ける意思)」がなければ提供できない立場です。訪問診療は、家族からの要請で伺ったとしても、本人に治療の意思がなければ成立しません。医療者が説得

を試みても限界があります。家族からは、医師が来て話せば魔法にかかったように治療に対するモチベーションが上がり、薬も飲みし、医師の言うことも聞くという期待があるかもしれません、それは本人の希望に応えていないことになります。本人の意思が重要です。ですから「注文してくださいね」と伝えています。私が訪問診療を説明する際、注文しないのに「何かしてください」は難しいですよというように説明しています。注文はお母さんからではなく、あくまで本人からでなければなりません。入院診療や外来診療を説得するのが医療者だと言われても、それにも限界があります。そこは日々ブラッシュアップしていく必要があります。

岸本 10年前に比べ、訪問診療を行う診療所の数は増えています。以前は「通院ができない=すぐに訪問診療」という流れではありませんでした。光愛会の理念として「人は社会に」であり、社会とつながることが重要だと考えています。家の中にいてすべてを済ませることは理念から少しずれてると思い、できるだけ通院を促していました。しかし最近では、受診できない方への対応として訪問診療を導入する機会が増えています。訪問件数は倍以上に増え、以前より訪問診療をやっているクリニック

Outreach Only for Severe Cases?



わたしたちの訪問支援 アウトリーチ

も増えました。ただ、訪問診療が必要かどうかの線引きは難しく、どうしても本当に通院困難な方だけでなく、少し頑張れば通院可能な方も訪問診療となってしまうケースも見てきています。そういった場合、支援者が社会に出る機会を奪っている気もします。

町田 訪問件数は以前に比べ倍以上になっており、訪問診療の医師も2名増えています。非常勤の医師に慢性期の利用者さんをお願いしています。現状では毎週初診があり、新患も増えています。

本人ではなく、 家族からの相談が多い?

高田 家族からの相談も多いでしょうか。

伊吹 相談支援専門員として、訪問診療や医療とのつながりが必要なケースでは保健所と連携することが多いです。家族から相談があっても、まず保健所に依頼し、必要に応じて医療機関を紹介してもらいます。訪問キャンセルがあった場合は、その理由を丁寧に確認しています。福祉の視点から、生活にどのような影響が出るのか把握することも支援の一環です。

Consultations
Mostly from Families?

訪問診療・在宅支援の 実情と課題

高田 訪問診療の目指すところは、通院につなげていくことでしょうか?

町田 外来でも対応可能な方には通院に切り替えるように促しています。ですが導入時には身体的に通院困難や支援者不在のケースは仕方ありません。一番、典型的なケースはパニック障害などの精神症状で、そもそも外に通院できない方です。訪問診療を受けて症状が改善し、外来通院に移行しさらに改善し、最終的に通院自体が不要になるケースも少ないのであります。これは理想的なケースです。

Realities and Challenges

外来と訪問の境界線はどこ? ○

高田 病院では、ご家族の同意による医療保護入院など、強制的な医療が行われることもあります。そう考えると、病院の外来で行われる診療も、実は訪問診療のようなものではないかと思えてきます。ご家族の意向が優先され本人が無理に受診させられているとも感じられることがあります。

町田 最初はどのようなケースでも受けしていましたが、一番重要視しているのは「本人のニーズはどこにあるのか」という点です。現状、ご家族の意向だけで訪問している方はいません。こちらの力不足もありますが、時にこちらに攻撃的になる方もおられます。それでも来てほしいと言われれば訪問しています。

高田 訪問をキャンセルされることはありますか？その場合どうされますか？

町田 ピザの宅配のような感覚で「今日は無理なので(日を)変えてはしい」という方もいます。そのような方には「もう診られませんよ」と伝えています。

岸本 訪問看護では基本的に週1回訪問、月4回とされています。キャンセルが2回あれば、訪問は月の半分で良いのではないかと思います。「あなたは月2回で生活できていますよ」と伝えています。良い見方をすれば、支援は減らしていくべきです。必要があればその時に増やせば良いのです。スタッフは「行かないといけない」「回数を減らすのは悪いこと」と思いがちですが、本人の力を信じて任せれば良いのです。何でも行けば良いわけではありません。本人が求めていない場合もあります。要するに「自分の用事」か「支援」かを天秤にかけ、自分の用事を優先して生活できているならそれで良いのです。

伊吹

相談支援事業では、訪問キャンセルの理由と原因をきちんと把握するようにしています。なぜ断ったのかを原因を把握することが必要です。社会生活を維持していく上で必要であれば「キャンセルしては良くない」と伝えます。

Number of
Home Medical Visits?

○ 訪問診療の訪問件数・頻度は? ○

高田 訪問件数・頻度はどれくらいでしょうか？

町田 月1回や、2週に1回の方もいます。

伊吹 月に数回であったり、人によりますね。

岸本 症状が悪いため、外に出られないから訪問を週3回受けている方もいますが、多くはありません。社会生活を送っておられる方は週1回の方がほとんどです。やはり家から出られないため援助が必要なのです。援助の回数が減ったのは症状が良くなった証拠でもあります。キャンセルの方が訪問より多いこともあります。こちらの考え方をきちんと伝えた上で、適切な回数で訪問しています。

The Line Between
Outpatient and Outreach

TALK THEME

"OUTREACH"
OF KOUAIKAI



わたしたちの訪問支援 アウトリーチ

○ やりがい・成長について ○

高田 訪問診療をやっていて、やりがいや成長を感じる瞬間はありますか？

町田 私は施設には訪問しておらず居宅に行ってますが、外来や入院とは全く異なり、患者さんの生活空間に入らせていただくことになります。大学病院で研修していた時に入院していた患者さん（統合失調症）と、偶然居宅でお会いしたことがあります。十数年ぶりに会い、ご主人とそれなりの生活ができているのを見られたのは貴重な体験でした。精神科医として患者さんの生活がわかることはすごく価値があると思います。

岸本 利用者の方は支援者のことをよく覚えておられます。学生の利用者の方が就労支援を経て就職が決まった時は本当に嬉しかった。その方はコンビニで障がい者枠で働いていますが、店で一番声を出しています。気づかれないうよう見していましたが、感動で泣きそうになりました。いわゆる「困難事例」の方でチームを組んで家族支援も行い、10年近く継続支援していました。頑張っている姿を見ると支援して良かったと思います。看護師として、そうした体験が支えになっています。たまにそのコンビニで弁当やスイーツを大量に買っています（笑）。

伊吹

この仕事をしている理由ですが、15年ほど前に精神科病院の中間施設で相談員をしていました。その際、施設スタッフだけでは、退所者の生活が守れないと感じたからです。障害者総合支援法の相談支援制度ができるから、地域にケアマネ的な人が増えましたが、制度がない時代から退所者の住居問題や葬儀の手配などを対応してきました。ですから生活支援、相談支援の仕事に携わって17年になります。

高田

私もアユースで訪問の一例に同行し、服薬指導を行ったことがあります。生活を知って支援することと、知らずに支援することは違うと感じました。

Motivation
and Growth



○ 訪問診療における 外部との連携について ○

高田 アウトリーチサービスでの連携や課題については、どう思われますか？

町田 普通に外来や病棟で働いていた時より、いろいろな支援者と連携がとれています。直接会って話す機会は少ないけれど、報告書を頂くことで連携は思っている以上にできていると感じています。患者さんからはもっとこうしてほしいという声もあるとは思いますが。

岸本 現状、業務が多忙すぎると感じています。連携する医療機関は約70ヶ所あり、一つ一つ対応するのは現実的に困難です。報告書も毎月何百人分をスタッフが書いており大変な業務量になります。書面だけのやり取りでは

申し訳ないと思いますが。通常業務に余裕があれば、利用者さんと密に話し、将来の支援の方向性などを医療福祉関係者と共に考える時間を持ちたいと思いますが、スケジュール調整も困難な状況が続いているのが実情です。

伊吹

相談支援事業では、利用者を中心医療・福祉・就労支援のチームを地域で作って動いています。利用者さんと年に1回担当者会議を開いていますが、やはり医師をチームに呼ぶ際には気を遣います。

町田

退院前カンファレンスや行政の会議などで、いろんな支援者と話すこともあります。文章だけだと「何勝手なことを言っているのか」と思うこともありますが、実際に顔を合わせて話すと「ああ、そういうことだったのか」と分かることもあります。訪問を主にしているので、そのような場で声をかけていただければ…。

Working with Outside Partners

伊吹 Dr.には断られるのではないかと思ってしまって。

町田 実際に話すと「こういうことだったのか」と進むことが多いし、会って話した方がよかったと思うことがあります。

岸本 細かなニュアンスが電話だけでは伝わらないと感じますね。電話は時間が限られますし、ぜひ顔を合わせて話す機会がほしいと思います。

伊吹 医師が来てくれることで話がまとまることが多いと思います。

岸本 訪問看護も医師の指示のもとに行っています。計画相談の方に「先生を呼んでいますか」と確認すると「呼んでいません」との返答が多いのが現状です。忙しいと最初から思われているようですね。

伊吹 緊急時はお願いしますが、定期的には少し気を遣いますね。

町田 たまに「いかがですか」と依頼してみてください。「医師も実は困っていた」といったことが話せるかもしれない。

○ 訪問診療の現状について ○

高田 訪問診療は長年受けられている方が多いのでしょうか？

町田 長年の方も多くおられます、もちろん最近利用されたという方が増えています。

高田 ほとんど外に出られない方が多いのでしょうか？

町田 出られないわけではなく、近所くらいは行けるけれども、「バスに乗って光愛病院まで行くのは難しい」という方もおられます。普段は自由に過ごしているが、外来に行くとなると「しんどくなるかもしれない…」と言われる。その場合は「しんどくなったら訪問するし、訪問に来てほしいと言ってくれれば行きますよ」と伝えています。

○ 座談会のまとめ ○

高田 精神科医療・精神障害者支援において、様々な訪問支援(アウトリーチサービス)が増えてきています。今回の対談を通じて、光愛会での訪問支援における現場の実情、悩み、やりがいなどの一端を垣間見ることができました。利用者の方がよりよい生活を送れるよう、光愛会の各事業所間が連携を深めていくには「顔の見える関係」の大しさを再確認することができました。さらにご家族、他の医療機関や福祉事業者の方々、行政の方々などとの連携や協働をすすめることで、多様な生活支援が届けられると感じました。

関連事業・施設紹介



光愛病院

大阪府高槻市奈佐原4-3-1
TEL. 072-696-2881 FAX. 072-696-6402

ひかりえクリニック

大阪府大阪市生野区鶴橋2-18-10 88ビル2F
TEL. 06-6741-8000 FAX. 06-6741-8001



こうあいクリニック

大阪府高槻市大畠町6-15 2F
TEL. 072-697-1700 FAX. 072-697-1701



高槻地域生活支援センター オアシス

大阪府高槻市松川町25-5
TEL. 072-662-8130 FAX. 072-662-8131

けあほーむ はばたき

TEL. 072-670-2220 FAX. 072-670-2230



訪問看護ステーション アユースグループ

アユース高槻
大阪府高槻市桜ヶ丘南町23-5 桜ヶ丘医療ビル2F
TEL. 072-695-7910 FAX. 072-695-7905

アユース吹田

大阪府吹田市岸部南1-24-3 アクア
TEL. 06-6317-7878 FAX. 06-6317-7879

アユース森ノ宮

大阪府大阪市東成区東小橋1-9-19 玉造駅前ビル3F
TEL. 06-4303-3251 FAX. 06-4303-3252

アユース枚方

大阪府枚方市牧野阪1-12-10 マルエス牧野ビル3F
TEL. 072-807-7682 FAX. 072-807-7683

